

平成 26 年 9 月 13 日

WAW ! Tokyo 2014 ハイレベル・ラウンドテーブル 安倍総理スピーチ

本日も、朝早くから熱心に御参加いただきましたことを厚く御礼を申し上げます。

本日は、世界 24 か国、6 つの国際機関、そして日本国内からも、様々な分野で御活躍をいただいている皆様にお集まりいただきました。各分野で活躍する女性が世界中からここに一堂に会し、包括的に議論を行う。我が国がこの会議を主催できることを誇りに思います。

日本では、男性の中に女性が一人だけ、という状況を「紅一点」と言います。今日は、まさに逆であります。孤立感を味わうことを恐れず、勇気をもって、議論に参加させていただき、皆さんのパワーをいただきたいと思います。

女性が輝く社会を作る。ちょうど 1 年前、国連総会の場で、私はそうお約束をいたしました。この「WAW !」は、そのお約束を実現するための第一歩です。

日本は約束を守り、行動する国です。女性が置かれている状況は国によって様々だと思います。しかし、今日、ここに集う皆さんは、女性にとって、未来をもっと明るくしたいという共通の思いを抱いておられるはずです。この場を、知恵を共有し、解決策を見出すスタートとしていきたいと思います。

世界を見渡すと、女性に生まれたというだけで、自立する機会を奪われ、医療ケアや教育など基本的なサービスを受けられない、という悲しい状況が未だに見られます。また、紛争下では、女性の名誉と尊厳が深く傷つけられた歴史があります。

深刻な反省のもとに、21 世紀こそ女性に対する人権の侵害のない世界にしていく。この決意を皆さんと共有したいと思います。

パキスタンの農村に、10 歳から 12 歳の女子の就学率が 1 割にも満たない地域がありました。我が国の支援で、女子学校などの整備を行い、女子学生が学校に通いやすい環境づくりを進めています。

教育や保健といった基本的な権利は、世界のどこでも保障されなければなりません。女性も男性と平等に学校に行ける。妊産婦の方々が安心して医療ケアを受けられる。そのために世界は一丸となって行動していく必要があります。

そして、女性の皆さんが経済的に自立する能力を身に付けることは、誇りと希望に満ちた人生を歩むために、不可欠ではないでしょうか。

今年の1月、私はコートジボワールで女性向けの職業訓練施設を訪問しました。日本から贈られたミシンで、裁縫を学び、華やかな色の洋服やカバンを作っていました。誇らしげに完成した作品を見せてくれたキラキラした瞳と笑顔が今でも忘れることができません。

ケニアでは、スラムのお母さんたちが作るフェルトのぬいぐるみが大ヒット商品になっているそうです。若くしてシングルマザーになる例も多い。日本の女性、菊本照子さんは、職業訓練工房を立ち上げ、ぬいぐるみ作りを教え始めました。今はお母さんたちが自ら材料を購入し、帳簿付けまで行っているということです。デザインにも斬新なアイデアが生まれているそうです。

世界の女性が技術を習得し、そしてそれを生かして家計を助け経済的に自立するお手伝いをする。我が国は、女性の皆さんの挑戦を引き続き世界のあちこちで応援していきたいと思えます。

昨年、私は、国連総会の演説で、女性を中心に据え3年で30億ドルを超す支援を行うとお約束いたしました。着実に実施されています。すでに18億ドルの支援が行われ、ケニアの菊本さんの活動も、関係者の皆さんの熱意をODAが後押しすることで大きく花開いています。

また、私は、「国連の女性政策を担うUN Womenの活動を尊重し、有力貢献国の1つとして誇りある存在になることを目指す」とも申し上げました。ムランボ＝ヌカカ事務局長がここにおられます。日本はこの1年で拠出金を5倍に増やしました。今後もより多くのプロジェクトを支えていきます。ここで、嬉しいお知らせがあります。UN Womenの日本事務所を来年、東京に開設することになりました。ぜひ、新たな拠点にしていきたいと思います。新事務所を拠点に、国連との連携をさらに強化していきます。

UN Womenは、来年の世界女性会議20周年に向けた活動を展開しています。今回のテーマは「女性と経済」。日本はこれを受け持ち、シンポジウムの成果を世界と共有したいと考えています。

日本には「三人寄れば文殊の知恵」ということわざがあります。本日は3人どころか、100人の方々に集まっています。それぞれの知見を惜しみなく提供していただき、世界の女性が、そして、男性とともに、女性が輝く社会づくりに参画する。そのための具体的な行動につながる提言をいただきたい。そして大いに発信していきましょう。

この社会革命ともいべき取組は、1年では完成しないでしょう。皆さんには、それぞれの国に成果を持ち帰っていただきたいと思えます。そして、来年もまた、東京に集まりましょう。来年もまた、再び皆様とお目にかかれることを楽しみにしております。

ありがとうございました。Thank you very much.